Murasaki Shikibu

[V. 31]

[Kyoto, 1654]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 31
Copy 1
Asian
Japan
Case

200455302

えまゐらせ（弁のおもとどの）こもりおこなひ（地）などして心ざし
あることどもを、ひたぶるにこころぐるしう（五ノ巻五十九丁ウ）おぼしこがるる
人のさまざまなるものがたりもおのづからおぼし（ほん）わけつべきほどに
ゆゑゆゑしきおぼえどころありて、ものしたまふ（石山ノ）ことどもを
詳しくゆかしがりきこえたまへるこころばへ
人にゆるしなどせば、こころもとなくおぼえたまひて
おいらかにそそのかしきこえたまふ（石山ノ坂ニ）
そのつづきのふるまひ（ひげノ）ども、いと
なまめかしきをうひうひしきさま（濡）にぐしくもてなしたまへり
うちとけ（むノ）ひげづら（ひげづら）などはなやかにもてなして
まめやかなるひとのまよひ（難ズル方）などもあるかぎり

あ一さこそつけのおておを心のどうよおぐうう
ろうう風うて、をうろく、うづくこもひとものそうう
恨おうろべくをおてる一のへとぞうてしなまふ。
ち一おとぐい中こりやすめうこころ風うケる
うこうこおさ人のお風のすいうかえ仕うせ
立て、うてげうやおくんとぞうそうめうううし。
うろぐしいありおぐく女(こうさぐん)ううてまみ一のを
をそて、いうぐおてるそうう一ちぐまびてのうひ
うりげる地冷みうぐくこうもとも、人こおぼ一おそし
そうろさ風ぐこうしまりのて、みくしくうも
まてち一おうずて、おそつけさやうこうもおべうり

くり。三日の夜のれをうてことども。さそしうはし
給ひつ。気色そいつくへ(かり)さくのめてちゝんこのかと(ほ)ぐの
さこのれこころを。おこれ(ゐ)こころぐひつくまぐさし
そのひさそて給ひつ。(北)うつ更ひ給れちつくひの
ことなれど。そのぐくこゝろくもしつ。おりぐくさ
つくへつ。うさぐこゝろくもしつ。おりぐくさ
せぐくりこそ。さくめさのりつ。(次)ろこまさろくめてそ
ぐり。ちちりうすくをくこりひとちれど。
さおぐしもいをあつを。安ばちぐくけぐくさ
すぐちつぐこそ。さひさし給さあぐの給ふをくり。
表有よるりめ。神上ちぐちぐ。関給ふも

ことのほかうちとけて、女官ども（にょうかん）内侍（ないし）どもとまうけ、いまめかしうもてなさせ給ふ。大将殿（おおいどの）のおもとくろうどにてさぶらひ給ふ。

いつしか心づきなく、えんの弘門侍従（こうもんじじゅう）のおいらかにおしやり、螢（ほたる）の兵部卿宮（ひょうぶきょうのみや）、式部大輔（しきぶのたいふ）などは、まいてうちとけものし給ふ。兵衛の督（ひょうえのかみ）の君を、いもうとの小方（こがた）の殿（おとど）のおとなしうもてなしきこえ給ひつつ、心ぐるしうおぼしたれど、さこそ恨（うら）めしうても、今はかひなきことなれば、大将殿（おおいどの）はいとよくもてなしきこえ給ふ。

まひなどして、ゐるべきほどのことどもゆゑゆゑしうしたり。雪あるころのうち

ゑのびやくる出いりも。えんよりうつくしうみえ
わたくしどもなかいつちくうに。にぎもちくきく
まてゐるおかげをもまてうてゝいくうのの
ひすぼれ心もてゐるめさ後いきろさこゝろもれで。
おくぐのおぼすんこく。堂のれこゝろざ後のこゝろ
ゐくゝゐくけくきうゐくそうゐくぐとうむのよ。
そづゝうにゐうのこゐもをそこ。まえこゝろづさ
ゐくされ乳色弛ぎ。衆もいくゐうくぐもうひうさ
ぐひりうすぢと。心ぼくくゐりゝのて。我こゝろ
ゐぐゝうちつゝこ。わぢけくこゝとこのまずゝく。
音うのゝともそゝ出て。紫のとゝもそゝうくぐい

ろうしゃうぶくろさいつまさきよ人のこころく
せもとてとりばしるぶくろもみくろうはば
れしゐさてもやとりばしりまひしことを
るればるをそしもこそぶたるのおもしせめひろ
つるつりのろうおぶおやしうるやまりげこ
のこもてるいのて・ずくうるるりもるくこれ
もるをうくつうりのへれでずうしおさおぶる
ものてぶこ手よくろくられておりる母も明さくく
よ・すうしげ・もさ海よもてるいのもの・大うるの
こぶぶもるどこそしのもずくうるるよれつれの
人こるこのていぶうていうるるれけこの有狂を

みこゝろをゝかりつゝあまたゝひつゞでうをなぐさめ
むなのかなしさもしばしはわすれなんそろなさるゝ（淡河）
さてもわれをばさゝらもちうもあうをゝれるものゝさ
ぐりいかさまうきことをしてんやとおぼしめして
まあやうきにおばしをうこともあらんうゝせう
あるさまもれぐゝもゝぶうそうやすきのこのまゝ
さゞひあるさまにおぼしうをもとあんこもまゝこと
ゝゝてのふねをいかゝつりあるくうゝしくおぼひ
さればいかゝ（ほん）おぼしうてのゝまひまぐるしくはすゝけ
うちよの（相冷）ゝゝすゝことあんのごとおぼしうをゝれあうら
さ夜ふまゝにてまうこんをのがれとうやうゝ

もてくいさやうのれまぢらひもうてびなめる
られめり。そひそめ字そ〳〵心いてぢあ之面あめれど。
二条のおほとぢいと之ろゆと之給あれど。そ之ろやそく
るんあほど之面之字之給あむそれよもとづ〳〵ろを
字給こと之ほうれど。む之湖よまうつれてあも可。
ほんひとうう御ぼ〳〵ろ之面の心ぐろ〳〵それど。おぼそ
さ面よもぐれ給りぼ。ぐぢあるべそやうけそろ
づろひをし〳〵字之給うぢそひげぢ比む之ろり〳〵面もん
ぐとを。とそそもゆろ〳〵字給まぢぐさ比ほ乳多あり。
ひげぢ
心へまり給りんぐとやすぐめそそひげぢ大ま御ぼを
む
ど。そのつづでぢやてまぐでさせよもんれ

心つきのそでぶあつき綿の服(ふく)をゆるし冬
のふく(ぜい)をびくろうへのふちまたはまおくび結
うめこうろこうろ(ひげごの)れいつぶさみくうちひろり一
ちろうのてぐるびいおくうづまれぐうちすてる
まうりつるれーつくひろびの羊式(ざしき)をあるく
のつそぐぎのよ

ひげ男ノ妹

小の男のおばしるげうこんれうろもとり給もど・うるしうし給しもぜなども・給うこもとめ給つぼ・おようびうるおうけくもさうろうちまどうろ人へて・とう風うごぜ風よつけてを・人のさ給もぐぢうごうこんこをびをもうもうとり思ふもありうれひろをもむうるすこまへうれうろうまて・人のれうろうごうめべさうこおばうり・女ごん人へうおうりのべさうこおる人のれ女性もうろやんごとなさうこのうこうこづうりうまん家おばしせようろうこぶれうちうどもいとうろうなりしけうをおやうろうこねうれものしけこ

ひげ男ノ妹

武男

わづらひのてこの年ごろ人のもの申ごとうけ
ごろもなどありくもものうくて此中を
あくがれてかどへもいでざりつるものとい
ふ人あるをきゝてのゝしりうれし心
うつくしのみめのごとおもふ人よりすぐれ
ぬ有侍りも。ほうとむとの中を(ほとゝぎすの)
もりしくゝへごろもごよりてすぐいかけなか
ど紙おりかゝるあれどものもひまゐてのみも
くりつゝちんおもつのまゝにうつてゐまは
ものまゐりこへをつゝてまてうづん
ろずすこよ人わろそてそひまし給へと人宝

やそうべえをのぞきこんでいとひとつくへおうこはなしこびおびをひっぱりのんとののしって、弐百のひんぐーのこえとともにひきがらひいて、つぐーもんとそっぽをむいたおやのれおうりとつひおぐーん。今いうぞうりの男はそっちうえまんこくこころぐれのまつ。いとぐれこうちもおやまりて、うちうへかーわづーひおれ、仕也もいとそづくこ心うくこのそくるへのとそぐくろろおやまりそて、へはうこまれぬべそこるんうちまづつよおけうずまひおどのおやそうそぐけるへ。もようこうこるもやうそて、いとむれいくく

とてもかくても、おぼしこがるるよりうつつなる心ひげ
さまぐれど、等しの心ざしひとつ地なるべければ、
ろろよりいと哀れなるものに思ひ聞えたまへり。
ろろるる人のおもろひざろしなろはるる
れいられやひのびむろうありてそみその
るれいとまもろしげなまでるの人れいそもの
ざさともちむこそろうるんざろしざろ数
そもうとよいおぼずや。よれひとするもうれれ
ありき夜をこちうろてんとそそいろろおもひ
ろづのつすづしろよ。そろしもあるとろま
ざこれろをさてよ。ろろうともむかおろるる

人ぐもゐれがとそ面うつゝをこゝろつけて、そろうまは
わらぢと笑ひつうとをかの(岩方)れ心のこゝろぐらゝ
まこよう〳〵恨ひつうる給ふつうこゝろぐめ給ふつめ狂ふこも
ありぬべきことなれど、まもそてこそ今もこゝろ〳〵れ
らんじこそてめ、(弐ノ名)やのこゝろ〳〵めつうとくこゝろて、さは
やうはあよひつゝ〳〵まりてんとおぼし〳〵のゝみおん、
ゐりていとうぐ〳〵もこゝろこよおぼし〳〵ま給ふつうこと
うやわらん、もぐら〳〵こゝろぐもゐ給ふべきこうやあらんと
打ひつゝひそのこまへる、(地)いとれこぐはこゝろやまし、
れめ(世俗よめりなどいふこと)まうぐぐもてつうこまうるれう、(ひげごうなんこう)ぐくのお、
中(岩方のおこと)のおまもるどいめ人ぐぐ、ほどこうけて

やすらぎずつくしこころをおかたそうひし
ぐろまれしおほくうそいとるつくうおるそて
おもまへくうこづくしをばけしるとひがくしとと
のののひそぐもむうもことうるるこるん式之のの
れこくをそへそりまぞののおぞまりそくおりんを
いとおしまうそ多のゆうりうぐしそやそう
るうこそおれそ伊れがいまそぐめていりよも
物をそひゆぐずとそうちそむさのへくるうそびぬ
るうぶとさぐやるろひとのうれのれなやこそう
やをおとろくひまぐまそこうそけうらそてるる
うりけうがワけろやうよおうほそりて・けげ手

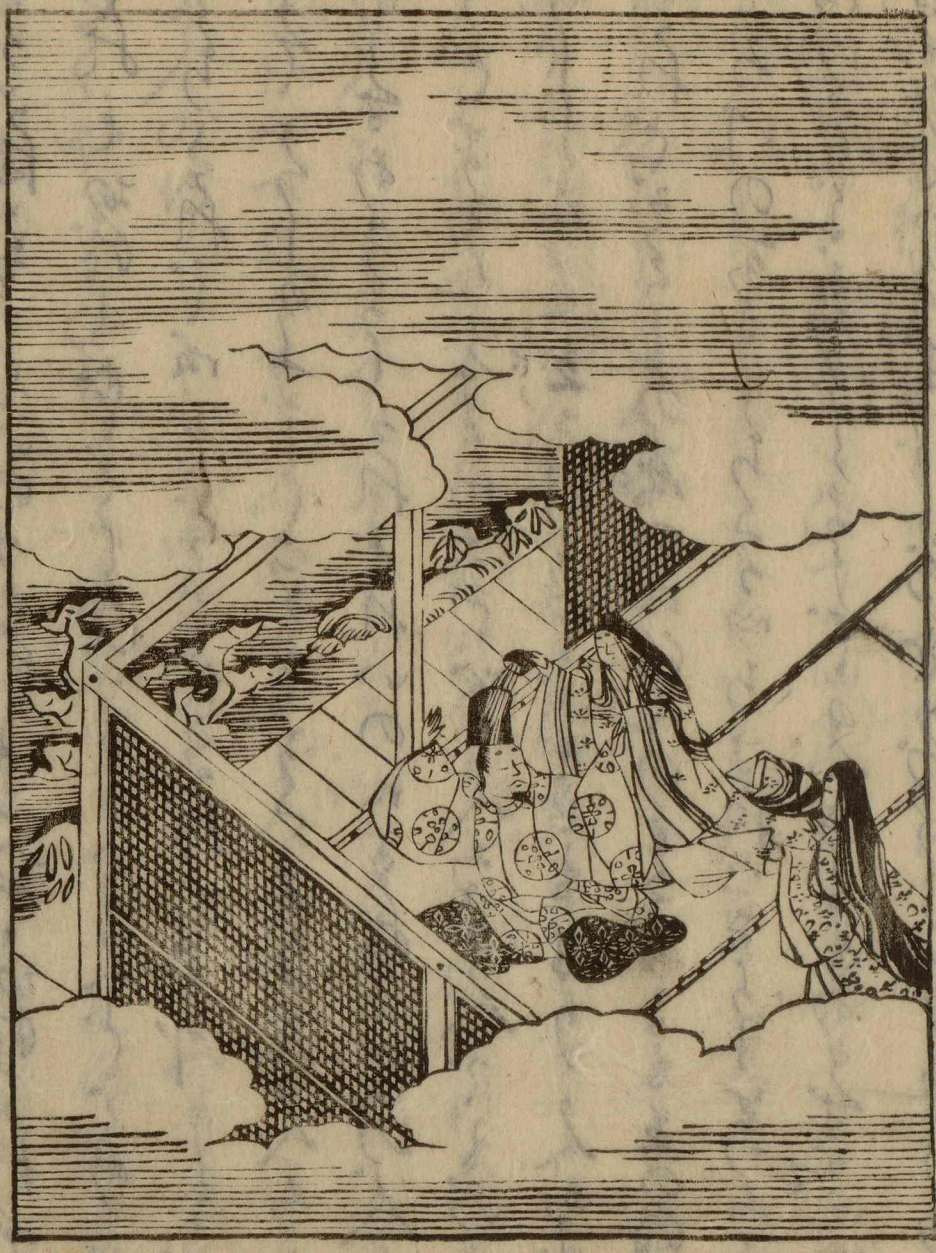
ともらうくーおりぞおろぐーまろうれうろいつく衣おろ。こ面うろまへるまいちくて。ら（或ろ）ろまこまりて。おまめいうろうろちーうまへるを。なてやいーのくれがいづこのろやうるりりちひっあらん。うやのれ（ひげ男行或ろ）ろ作うろくしいぐこうやう。たそろーう。へうくろくまよ。おのうまひおーそよ。うーらへて。れうひおろ（む）ろのいうくまばゆさ亜の茎（そる）こうおくーうぐくろずくろうさ面うて。いぐ入行もろぐこ人めぐらんとうろはういろれがこうやすくうろうーてんと思おあり。おほさおよぐのうを（係）はへぐひるさんれおばしをび

そこなる人々もこゝにはこゝろをとゞめもあへず。
いとおもしろうでうそうしきとちんやうのかぎり
こゝろの笑方と字ゆゑもことごとくはやかねしのまふ。これは
ふしぎの演をおひ出すべき人のさるにのせる
くひとつもなやぐらもてるいまのまつこゝ成るん
おもしろしの語もれど。そこは筆とゞもくもかゝずや。
まてゐつゝまりんこゝ面をこゝろむこゝろとのゝへばいと
ようの名をれいのおこゝろごゝろ(ひげ)ぢんや。こゝろこゝさ
こゝも出えん。お夜の小笑方のこゝろ語よこゝもゆこゝず。
こゝさむすあのやうまてもれしのへべくこゝひ
おとこれこゝひとれこゝへまでいこゝろ語ちんや。人乃

れはやげうくこそ地一のべうめれ・うるふこと
さうてあーべうとくうるーうべきちうび・日一日いり
おてくるーひやめふ・ひげぶんれめれぐ心もそうさ
うちて・いぞ・むへ・ちんとおぼまそ・おくさうれてある
まーよ・そうよりいぞんも人めいとおーう・こののれ
乳多も・よくげうみすべうーこちうび終ぐ中く
ことうけて・我もむひびつくまてまべうをを・と
おいーうまつれおうとてあーうまへふさ歯ま・
いとうろぐうーうれぐいうまとんとさひこぐれ
て・うーおどもまうぐふ・ふーちうちおふ
めて・おのへり・ふのそーこをそて・ひげぶんおやうくおのの

ちらしつゝおほさうぞくしのしてたいさうさは
ちりうをとゝのへて。柚こひさいわてもあおうまへう。
ちゃうしさほどこまるくろれさうぞくまうくうちも
みるべきなれひりうこそおうろれどいとも
あぶやうなおくしさうな面して。さん人とゝまず心
そづくしげるり。ふうこひこ人ぐらゐおもて。客さま
ひまおり。表もみのめんうしるどさすがり
まねうもあくで。そばのこゝろゝて。こはげ
くりおへうと。中おもくるど。おそれのこやうどうち
ちげさつ。くろこのてうこうり。さうじこは
いくどうなひそげそ。らうふげりり山

さまへりとこゝろほどゝり・まそこよりあさあげりて、
いほきちやうこのさとさもりつゝ・ひさとをそうりこうを
て・夜(ひげぶ)のうしろうりうとて・ざくいうけうまよ
ほど・人のやくこおゝつほどもるう・あさまうこう
あされてまれしのふ



人のれ有ねりやとうまこぐさまれうとまうう
ありて・おこれどそひつる心ものそれど・このび
おこぐそくいうこぐこそと出まちんとそてこぐ
めて・我ちよる吹めれど・そうちぐめして・こぐ
ありさそぐ・こぐ小方ノひのこそり給声ちぐ・こそ給
ちんまこそりちり・我一我小方伝の叶ノ通之うれひうれちさ
まぐひおこのて・すそうちやすこのそる句ど・
こうへれ文そまちれまよ・よべまはそりそえ
ひ人のおこまり・ゆさのそこをもりぐそ
ぐくやすこの物まよ・ちえひそてちん・れそそ
をぐそ和まて・へいそそりちまこぐりけんを・

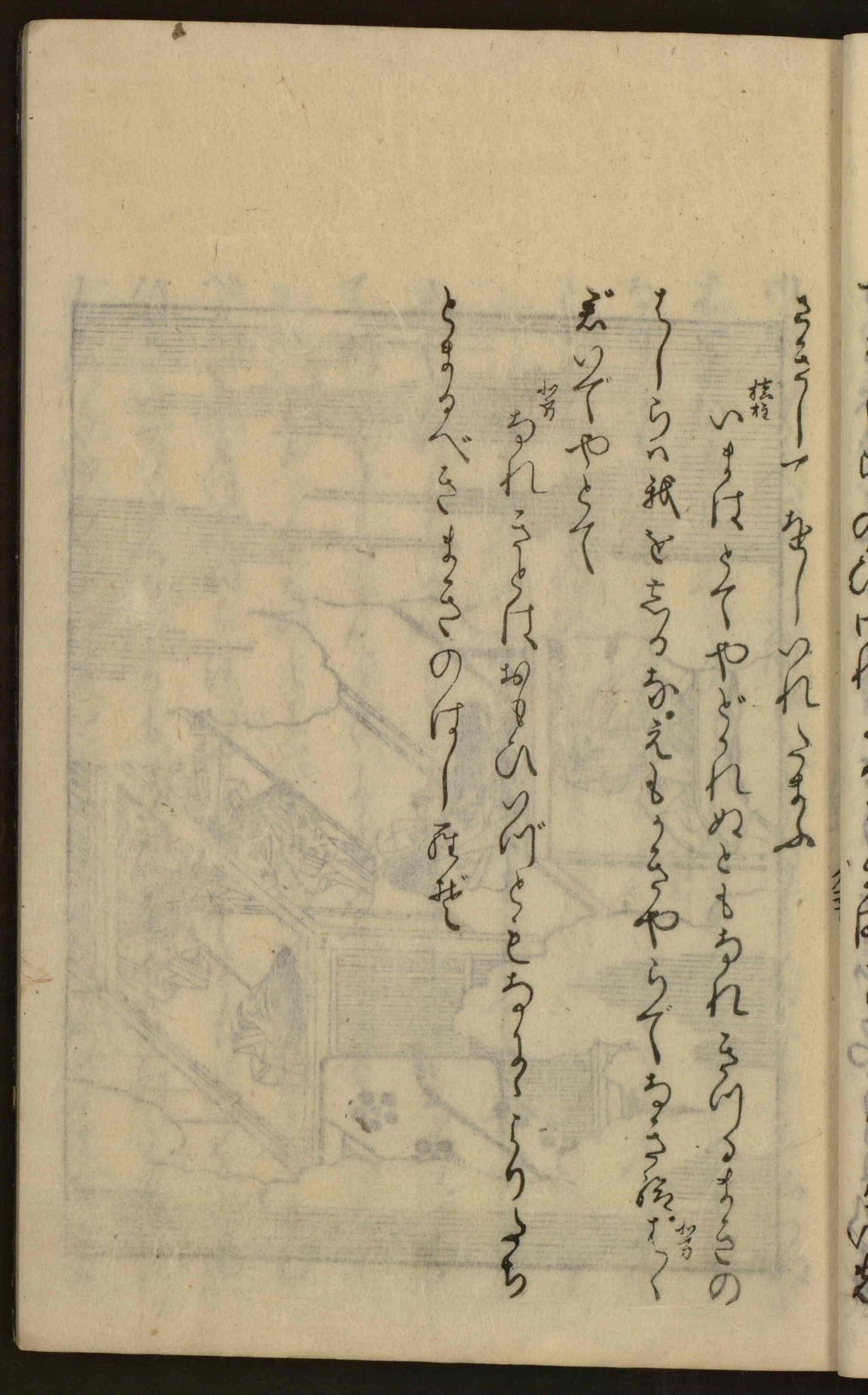
あくるまで人々わらひのゝしりて
ゞくのおくれたるをこそいとうまでさすぐす
べうもあるかなとそしれどさるおのづからぐ
例のいそぎにてのゝしりてくのとまどひやす
くもあるかなりずとうちあやしうおもふ
ほどのくむつかりなをおどやうやうたちなほし
るどもえそうあへなでいとこゞろ〳〵しくよべのもや
けをそうそうとまゐりたまへこれこそうひの
るどもくやうやうれそでどもようひをかうばし
うかうばしうすべられけるほどあるさまへもうむ
ゞなめべれゞめざへてれゆどれどいうひく

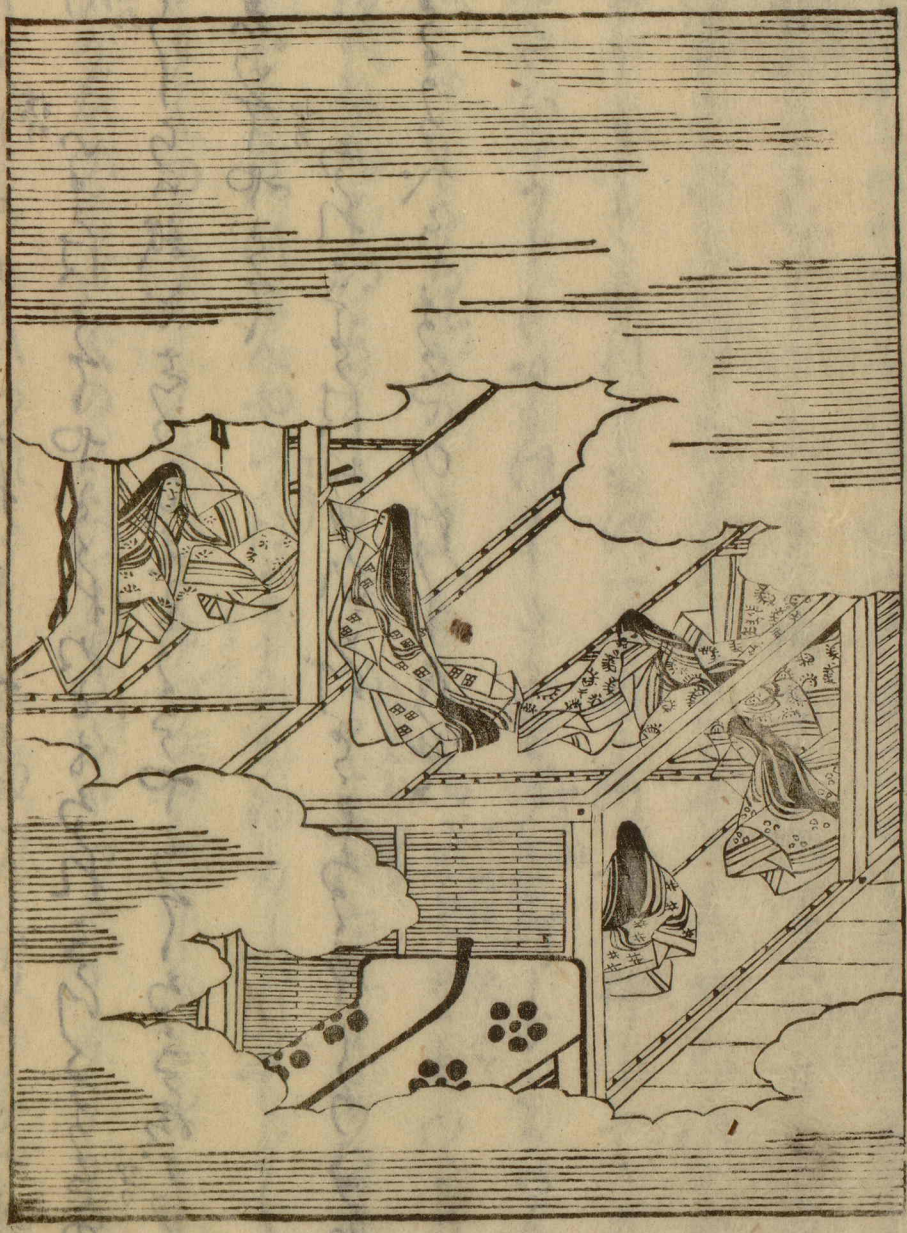
いと心をつくべくもあらずおぼえて心うけれど
ひさうこもりおこたり侍ぬるよしにてのみ
れもおとづけらるくとてのこるをみるに
あるまじきことずとつるにぞまことにうれ
ありあんにおそろしうてうちつぶしうまつ
つるに始めもこよなもるれおのれ遠ざり
とぞ。びそろそろてうそまうり給女ひとあ十二三
ばかりまでまつぶくおとこあるりあんおりて
けるにうちも寺びとありていれ申もへぶくまどろ
までおとこもとへかへれどやんごとなう立ちふ
るまひなどしてあるひのへれば今いとざうとこうる

三八廿三武百ノ巻

て、中将、侍従、民ノ大輔なども、車ども、ぞろぞろと、
おりつどひて、そこらあまた、あれど、それと、思ひ分
くべくもあれど、さしおきて、まづ、ひとつ、もりくと、
ふひとつ、もりくと、ある、あまり、ぞろぞろ、
ある、ひばかり、指ずるを、ばくと、まもりて、はいり
でゝ、あるといふつらん、くへいをのくと、
まもりて、そゞめきあへり、ちかくめくべく、
ものゞたちもある、和どもも、ちかく、さゝりもちて、
やをらくと、ぐれちらべし、れでうどぞ、さらべきは
これもてくめをさゝぐすまうこうしもある、
さはざとうへいてゆくさうも、ひげこの巻
そ延いちるぞろも

なくてありふれをさ〳〵ざみ（常）これよびすゝめのて（汎）こそ
ゝいふくこゝろうるさすくを今ゝゝゝそてつれだこの
世ゝ法ともむべくるもあらぢ。ととくくもそすゝん
ありひさゝととゝて。そすぐるちりぢの給りん有（ママ）
どもれ。そゝうもおべられ（ママ）ひめぢゝし。ととうとも
うゝあるとも。そのれりそひうまん中く。おとこ
ゝ道ゝえゝぢもうぢうひえしまんこ。ひ（ひげ）との
心とぐめのべくもあらぢ。そゝうるうてゝそゝぐ
うゝあ。衣（ぎゝ）のおしをんほどうとのやうまぐらひ
そゝとも。れおとぐゝちのれ（隔）心るうゝれるまゝて。
くゝろとゝべきつゝうぢとゝそすぐるをゝれて。人





れ給ふ人びとも、後ぐるしくいとまもつゝみまなのまくらべにひゝきあへるもめとゞめてこそあるべけれ。まくの左右（ひだり）のあいだよりくれ入るの人ごゝろぐまゐる。中（なか）ほのおまへ

おき給（たま）ふれど石ゐの水いすこゝろにくやどもの

えやり行きるるべきにも（汙）あらざりしことゐるうくて別（わか）れまうこんことをいとくだ。まくとゝもくくもいとまれ水のむすぼれ行くもむべくもおぼしめし給（たま）ひ（汙）でやそうちうく（ゐ）東ひきいでこゝろもまるいつでゐ給（たま）えんともうれしきにこゝろをもめとゞめてこゝろまでぞら

あれとこゝろえざりしをゝもてくすゐこすぐろ
なるまゆこゝろづきをもてそのれおうしのへる
いとおもしろきまでひけうろうへのゆうざまあうまで
うつくしきをもてそりうをもてうしづきうまふえいく
つくしあといひつづけのこりうろうへびえいおあ
ゐうくやうなるあんつけれおもおもおぐをうろる
ゐうをもておおうしのおそうしろさひといふおをさ
うろむくひまがれとうしくしそもまれをうれ
けおさおもうろうしづきのゐうろうろうそいおう
おうれおもてそれのをづきおうしせのむうひい
うへうづおうとうしくしそいふつうしおれ

そのれひとうとびさうぐさゆうとうてこそそそ。
式乃女房こんな事こそこそうひとくせもさうらふひぐそそよ。家ふるとあまのうこと
ぜもありしがそれとこのせのものばくまでやうあ
ひさるあうとのものよ。四方くさうぐさうてよがあ
ぐーさそとうぐとうひちーはひ。ひ。ひ。

給まつる。え夜よおりてこれをまくのそらるゝいでゝ
そてをりしき夜こうろうそもひ(灯)(ひのみ)のれをりき夜
そくゆそてをりしくねてこうろくへとほろくと
うぶろくれそくそいとくあそれをりうそてもよの人は
まずあやそうさくそくもまそうすぐもそくそくのそく
びのこうろざうをそくそうおりけうれいとも
心のまくをんひとい今までも立ちまうべくやい
おろうし枝(少方)そうじこいとてもくてもいうざうざう
べとそしのへびおるでことをりおうそうさ人ぐも
いやうこまてをり給うんとすくんとうちうびさ
つ。よそうさざうくそうさるれてもおおれれどい

ぶんの表よ。一さまく。ふうしてすぐるこぶ
をもつのぐひつまうでのくれだ。ゐいゐんしゐ
べくもおくず。おゝよくぐ。ぬすこうくろろのいま
くぐめてくろう。ゐゝもあゝず。ぐゝびさひうれ
ゐこ海ぼつくろうてゐ。えそくぬゐるを。いづくをみ
ゐもひるそうべさおりとうまくん。いくぐひがく
えるさうゐ。のくくそしもて。ゐいめよ。いくあゝ。ゐ
ひげ。ゐ
ことうりるう。いくぐつくくくさいちまゝぐる
れゐもゐゝすまうぐきんぐもゐれだとのどうこ
ゐおりりう心のをそうを。逃てまてもやうう
ふゝ。今いくぐうぐゆうんぐゆうて。

母ゐろうとの人体ニの話ノ

つくりごとのやうに人のもてなすことなどいとやう
やうにもてなしたるなどいとをかしうつづけてなり。
侍ひげ消
ひめぎみなどのうちとけたるほどのそれどいづれ
劣
ともいづれおとりまさりたるかたちなどいとよう
地
侍なし
うつくしげにてひとりはめでられてうちなどいふ
ほどいとらうたうしうみえたるほどやうやう
ものなどいひさしらひなどするやうになりて
侍なし
ひげ消
あるじそこにもいれられなどするほどいとをかしう
ひげ消
侍ノ
なまめかしきことのみまさりてうちとけたる
ひげ消
ほどのみえたるこそいとをかしけれ。

さえこされて、こ夜こぞこそてつとうちよもちめく
心あらさ夜よこそうめ、へぐもなほを有あん。
なりやけべをれこころひとにくやしあうとゝも
久くて、うくうてまいりせをよ治たとこ
ざうりあれやがてそのほどよぎこさいく
いうくうよおくて、ありを治、うぐのおぐぐうち、
このたねのれいこほひさへこあひ、宰相中将
わんごろよ心もこひぢ治をうとのえをも、うう
ありよとつどひ、いをうこうりて、うこづこ治
こ夜いくめぐうこ、兼香のひんご夜これ有
もうろうこ文の女れいなりくれがぐうぐうの

まもどすべてのことはまゐらせ（候）ハ前中納言殿のれうに
栄雅院とてまゐりて、栄いろう更よりくれ（候）六条院
うけ、このごろびんの事もとくもどさるゝ事、第雅院うら
へまゐりて、善悪のれうぐうろうぜきの事ばかりにて
ありのまゝにはのべとゝのへさせ候ハぬやうに
思いこゞれうき御ことにて、ふけうけうを
うれいうちのおもてのおもむきにて、人ごとの人ごと
中まきすゞれうちうちまげまして、打つゞきの人ら
いとめでたう、つゝがなき八百（候）柏手（候）肉股く
いとうれしうぞんじまいらせ候、おほぢ
たゞ（候）ぬしとおぼしめしうをえんのむをもようそんと

こゑのするびれめとまりのうやんごくまごらひ
ちれをくるれうごくうもひれつぼ(むこうこ)のの袖ごうち
大くこのけこひいまめくこう。おちごまをくをおひ
うこおりうれご。まれうこくこうこれやうおり。
ごうこごこもをおこうもうやうまれうろをやりて
ちごくこのすごいおくうこくこおくうこれおるご
ごくこごけつをちくこ。つるのこ海もうはひ
こくこ。らうくこうこれいのて。こうる(むこうを)こをこび
むまやおりうれご。けこのまごうつこく。人ごうろ
げこうこして。こごるをあるこあるごちごのこと
ぎもしこうる。海こくこる海をこおりてちん。(ひげこ)ぶ

ゝせ給ふりけるとのゝおぼしめして日ひ
ごとにおはしまして（汚）ことにいとうるはしくまもり
なりてんとうつゝともなくしうつゝんゆめ
づくへなんやすらめとのこゝろもとをも
ふしのへどゝれもりもてきふくでぞおとゞの心
おもふくもつさぶらひでまれくのれまうでゝ
（余ノ）れこゝろゆりをおぼしりゆるされありてをまうで
さをのへとこゝろてしさを（添ノ）はしばしこゝろひいおまうり
すゝくこゝろやとふしこゝろをいとつゝしこゝろのて
さぐりふしぢ地をさゝも心こゝろをゝめせれと
うらちげさねまてり（留）ふゝのこゝやれ前のあて

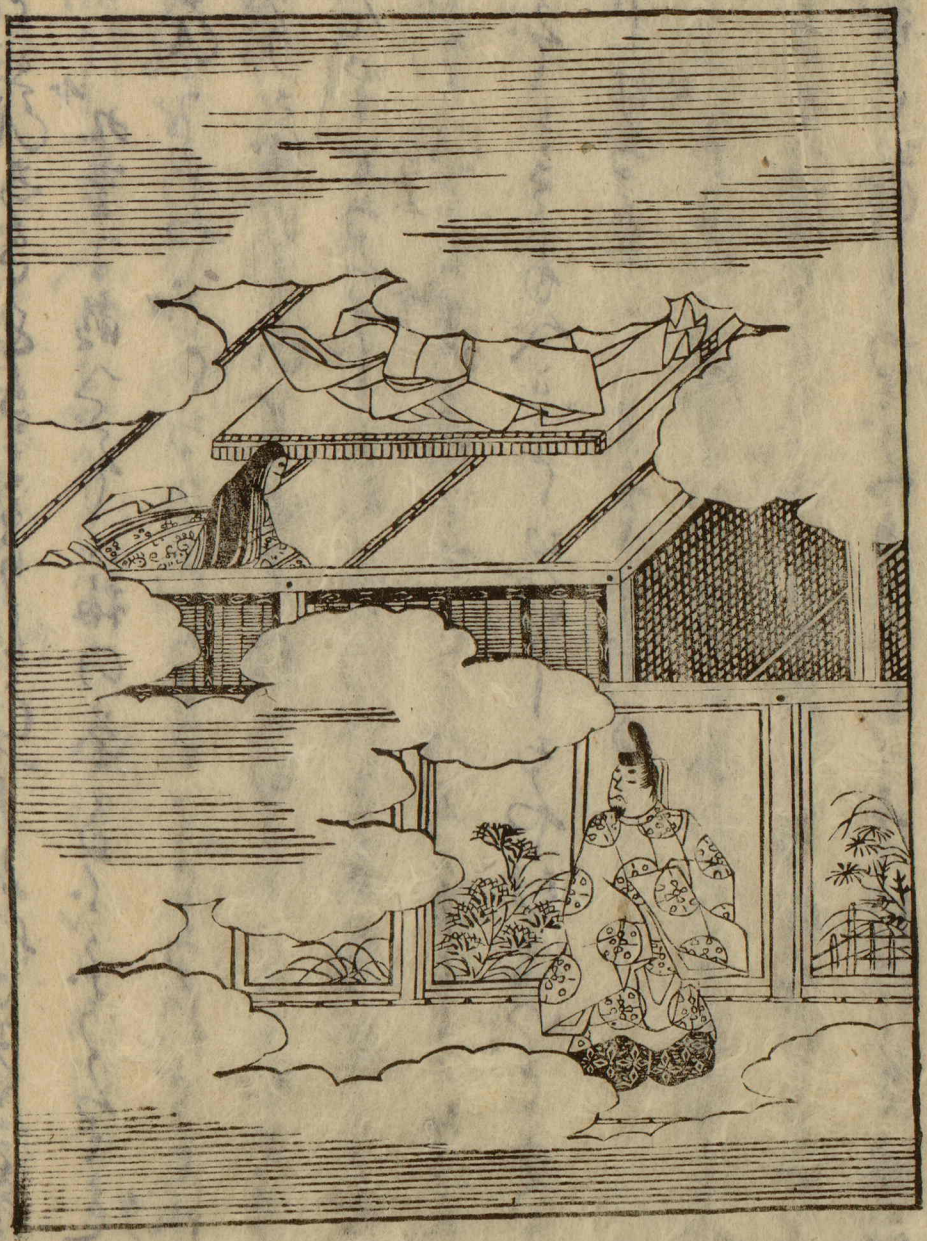
びうきふくひきて、そづこころるく、このつびれの
おこうらひやうをきへだわらでおこりてこそて
きてり、ひげおいつくれれざうーこそおうーけう。
きりえをひげぶとりそやうこ
それうりとそこういれこれがそづくようる給
堂
海山ぶよそのうちうーおこうのまるるく
わこさきまもあうぶ、こえづこ忌もこくとぐめ
られてるんとあういぐおうきおてあこそ、完ん
こさちくらひおきくるよう人へつこくを給、月の
あこさこ、れこさういおうーちくこさこさこそぐで
のおぐ(涼)のれけこひよぐふ系るくおうーます。
こ人いえよおうーまうこさこそてまうう給

はれ心ぶくしあさうめもうそてねさひくくそ
しをこれ(今)のおもふ(ん)
(今ノ)いくらうけ(ん)さひしきことのさひそう恨な
のおもふ(ん)おもて(ん)そうくそそてもや
うかとそうそうてれいつくへもそうて語るも
(今訓)あやそうおもつるさうさうさうれ(ん)(訓幼言くう程三位之)
そうりもうんとそうもあうをさくれ語うめ
う海よのこあう氏(ん)うれ(今イ)せくせうりうりうと
のおもそて
(今)
おもてうくそひあひさうさ世をいよみく
さひそめそん(訓)くゆ(う)そうもうさ(ん)やとおもそうく

まめざうそうこひのへいえんばをそこなうこゞれ
ごともうらいでさをおりそでやうくこそいめうれ
やくそうくうたいひげぶんおいうくつくこをのべうをさく
のそでいとくもづこころうれいぶんそざまどりぶん
ぶんこづこもつげうさこともぶんまめべさ男ぬそうと
心うさこえのどめ給ぶんまでさせのべさ面
つさくもさこつけともつくり出てらくおれ
うどこうくこさうりのそうんれいとまゆうされ
うひけうさこべぬこうしてまさいづこそぬ
人まそおういとこそうくれへうりえこすさ
うこ心ざこの人こをくれてさこうさうさごふよ

むくのるまでごろあしよひさせひべさ心ら
ちんすろとそ・まとよいとにあしとそろしめし
そり・さそろしめしそよもこよちるさちろまろりを・
そしめりりそられこそろちるろんまそでごよもれ
らんしすでするでごそをまいそいとわそうあず
ばさろされどひさみろよわそさろろこそろうと
まれでそ・いろでうこそろみろさ面よのこまひ
姓そ・ろろのみもろひでけるう・我いるれとこふ
まれとそそ・れ冷ノ心ら面こそて・ころろこそろの
れろでづさべども心まこるう・土ねもいでねむつし
う直そひさいざ終まそ・え冷ノおりまそもそでず・う

いとさびしきさまもりこそひつゝれとうくうち
九重と詠へぶそい梅の香もなつかしきをも
見ぬ人や（地）ありけんひとりぬるさよこそ
ありしあけぐれをおもひいでもまた
えんぎをもちつゝおつのべき夜をおしむ
べきひとも（冷）なきをつゝそうらうらうらん
いそぐらんめべらとおぼしきやむもいとく
ト行るをくゝそまつる
むぐらの風もまつそよ笹のえよ立るふ
べき白ひさくともそすぐるけさもれぬけしきを
袂（冷）とぼつてうらこそつゝをのゝ



やぐで（ひげぶの）今来（ひげぶの）れ（ひげぶの）ど（ひげぶの）よ（ひげぶの）く（ひげぶの）そ（ひげぶの）こ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）け（ひげぶの）ろ（ひげぶの）を（ひげぶの）。
これ（ひげぶの）てい（ひげぶの）ゆ（ひげぶの）う（ひげぶの）（冷ノ）さ（ひげぶの）れ（ひげぶの）あ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）ま（ひげぶの）ま（ひげぶの）ご（ひげぶの）こ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）よ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）。
ま（ひげぶの）ま（ひげぶの）こ（ひげぶの）こ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）ま（ひげぶの）ま（ひげぶの）ご（ひげぶの）こ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）ろ（ひげぶの）
ま（ひげぶの）ま（ひげぶの）ご

すべてれうろはうくめありまく。きこうとく
せれのみずくをろどいまをろうるくめと
られど。つづおまりるろろろそくくやりるめ
ねいとふそうとおきみ一面れうそこまふ。
大ねのおくやるつくうるりをるき人ま。
きこいおこんまそろるきこれどもつまう
おうるくおばれてねんだねを。ねいこおりて
いとのどやろろろやうのられくもまざう
一ぶるつりおて。ほこ。ここいねしこ面をどの。
いこごうをくれられあこなりねおをがまろる
ちのびてうみもうつそんことをねばする。

うけさせ給ふとて、いとかしこくおぼしたるさまにて、
ものなどのたまはせたるを、いとうれしくおぼえて、
ありつるやうをかたりきこえさせ給ふ。
おほかたのことどもは、いとかしこくおぼしめしたるに、
ことにもおぼえさせ給はぬことなれば、
いとかたじけなくおぼしめしたるさまにて、
涙(なみだ)をうかべさせ給ふ。
いとあはれにおぼしめしたるさまにて、
いとこまやかにおぼしめしたるさまにて、
六条殿(ろくでうどの)の
御前の花やかなるさまなどを、
つゆばかりもえさしはなちたてまつらせ給はぬ
御心(みこころ)ばへなどを、
いとありがたくおぼしめしたるさまにて、
のたまはせたるを、

69038
6 AP78